

— 告 告 —



湯浅輝生 (あき てるき)

金沢工業大学
工学部
情報工学科四年
愛知県立長久手高等学校出身

しぶとい現実主義で 時代を変革する旗手に。

この号の発売から間もなく、湯浅さんは川崎重工工業のエンジニアとして、社会人生活をスタートさせる。子どもの頃から興味のあったロボットをはじめ、輸送機器やエネルギーなど社会インフラの開発、製造に携わる夢をかきたてた。

それだけに、もつと笑顔が弾けるかと思つたら、「まだスタートラインに立っただけなので」と素っ

気ない。そんな彼の人となり、指導にあたる金道敏樹教授に追加取材せねばと思つた。

「もの静かですよ。でも、チャレンジ精神と向上心にあふれ、やり抜く責任感と粘り強さを兼ね備えた好青年なんですよ」。入学後の彼の歩みも聞くことができ、先生の人物評がすくとんと腹に落ちた。

湯浅さんは、一年次から課外活

動の夢考房組込みソフトウェアプロジェクトに参加して、プログラムの基礎を学んだ。二年次と三年次には、ソフトウェアの性能を競う「EITロボコン」で全国大会出場を果たし、こつこつ堅実に成長の階段を上ってきたのだつた。

そして、三年次に受けた人工知能入門の授業で、「金道先生の分かりやすく丁寧な教え方」(湯浅さん)にひかれ、研究室に入った。この選択も、今の彼をつくる重要なピースとなった。それは、「将来、周囲、自分を見極める力と、その上で前に進む力を育成する」という金道流の教育方針。しぶとい現実主義に鍛えられたからにはかならない。

卒業研究にも、その一端がうかがえる。テーマの「文章構造指摘システム」は、統計的な手法を使って論文の文章構造を図で示し、分かりやすいか否かをセルフチェックすることに目的がある。

先生は「面白いのは、論理展開

を可視化できる可能性を示せた点です。それは、彼が論文の意味論に深入りせず、論理展開部に登場する単語に注目する割り切った考え方ができたからこそ」と褒める。この着眼点こそ、まさにしぶとい現実主義であり、「今後は仕事を通して見える社会ニーズをしつかり捉え、自分の成長とうまくリンクさせてほしい」とエールを送る。

もちろん、一年間の研究では、文章構造の良しあしの判定までには至らなかった。仮にできていたら、このキャンパスレポートも書き直しに汗を絞っていたかもしれない。だが、そんな空想も空想でなくなる日は、そう遠くないことだろう。目の前にいる湯浅さんのような若武者が、時代を変えるイノベーションの旗手になるのだから。

金沢工業大学

石川県野々口市扇が丘七ー一
電話番号 〇七六二四八二〇〇〇

KIT
キャンパス
レポート
文・杉村裕之